

地域づくり推進研修

「サステナブルな社会への移行は地域での実践から ～学校授業や公民館講座などにおけるポイントとヒント」

四季折々の風景を楽しめる長野県内においても、猛暑時期の長期化や季節の二期化など、自然環境への影響を強く感じざるをえません。しかしながら具体的な取り組みをしている団体は限られているとともに、他団体の実践を知る機会が少なく、学校では授業の単元との絡め方が難しいと感じる場面が多くあります。

本講座では諏訪湖の御神渡しをはじめとした信州の環境変化を知るとともに、参加者自身が地域でできることを考えました。また気候変動とSDGs、それぞれの本質を学ぶとともに両者の関係性を考察し、具体的な実践例や学校授業・公民館講座の実施に向けて役立つ情報を共有しました。さらに県内で活動する方々とつながる機会にもなりました
(受講者数 25名)



〈研修内容〉

○講義Ⅰ 演題「気候変動の基礎と本質を学び、大人の責任を考える」

講師 自然エネルギーネットまつもと 代表 平島 安人 氏

○映画視聴 短編ドキュメンタリー映画「御渡し」から考える信州の暮らし

○講義Ⅱ 演題「身近な暮らしの見直しは気候変動に大きな影響を与える」

講師 自然エネルギーネットまつもと 代表 平島 安人 氏

事例紹介「学び合いとつながりから行動へ」

・長野県のゼロカーボンに向けた官民連携の動き「くらしふと信州」

発表者 長野県ゼロカーボン推進課 主任 和田 健太郎 氏

・長野県の環境学習・環境教育について

発表者 長野県環境政策課 主事 伊藤 和樹 氏

・気候変動を探究的に学ぶ～理科での実践～

発表者 信州大学教育学部附属長野中学校教諭 桐生 和樹 氏

○つながる時間

出展団体

・ラマ色コラボ

・諏訪SDGs教育ゲーム開発チーム

・人とサステナビリティ研究所

・信州環境カレッジ ・豊丘村公民館



受講者アンケートから

●気候変動(気候危機)は我々の衣食住と大きく関わっていて、カーボンバジェットがあと4年しかないというお話を聞き、その深刻さを改めて知った。また、この危機に声を上げ訴訟を起こす若者がいたことも知れた。(学校教職員)

●大人だけではなく子ども・若い世代の皆さんと考えていくことが必要と感じた。(公民館職員)

●御渡し、そして酒・味噌づくりと気候変動の関係について考えることができ、広く深い視野から考えることの大切さを学ぶことができた。(市町村職員)

●地球沸騰化の危機感についていろいろな場面で考えていくことが大切だと感じた。(公民館職員)

●行政説明に加え、実践事例の紹介があったことで、分かりやすいものになっていたと感じた。授業づくりをする上で、「外部の方と連携する」ことで、願う子どもの姿に近づける、そういうイメージをもつことができた。(学校教職員)

●探究の授業でさっそく利用していきたい。生徒に対する声掛けの質が変わる。(学校教職員)

●櫻ヶ岡中学校の実践から、生徒が自ら課題をもって探究することが、気候変動を自分事として考えるうえで必要であると強く感じた。(市町村職員)